

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース
2016年10月

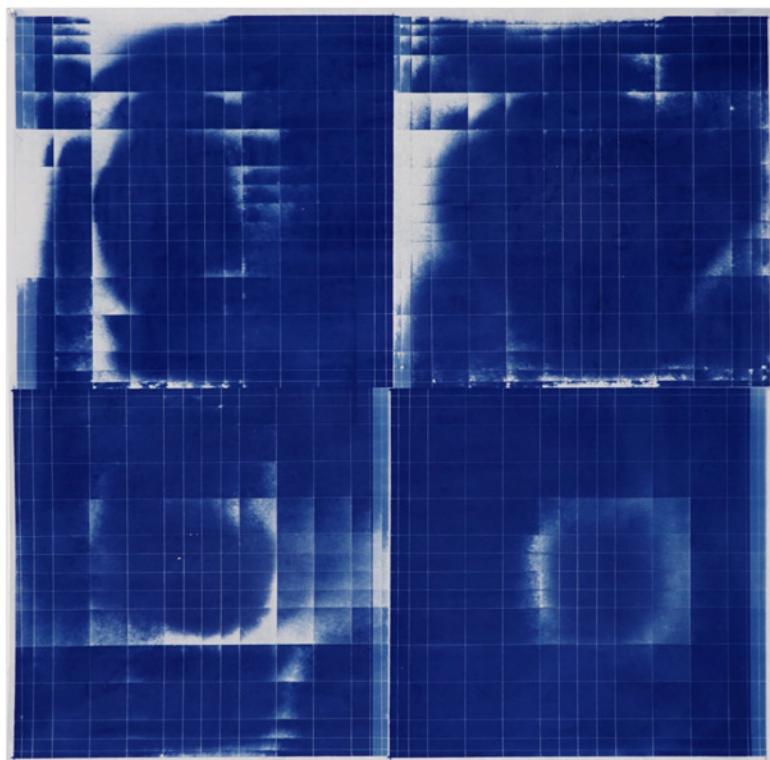
篠田 太郎 SHINODA Taro

太陽と富士山とスティーブ・ライヒ
The Sun and Mt.Fuji and Steve Reich

会期：2016年11月11日（金） - 12月24日（土）

オープニングレセプション：2016年11月11日（金） 18:00 - 20:00

開廊時間：火-土（日月祝休）12:00 - 19:00



篠田 太郎, 太陽と富士山とスティーブ・ライヒ, 2016, 青写真, 100 x 100 cm

MISA SHIN GALLERY は、11月11日（金）から12月24日（土）まで、篠田太郎の新作による個展「太陽と富士山とスティーブ・ライヒ」を開催いたします。

篠田太郎は1964年生まれ、造園を学んだ篠田は、宇宙を含む森羅万象を「人類の営みが共在するような進化する自然として理解する」ことをテーマに、人間と自然の新しい関係を提起するスケールの大きなインスタレーション作品などを発表してきました。近年では特に現代の都市風景やテクノロジーの発展した日常環境と人間との関係を考えることで、生活、社会、文化を含めて抽象化された自然の概念についての洞察を深めています。

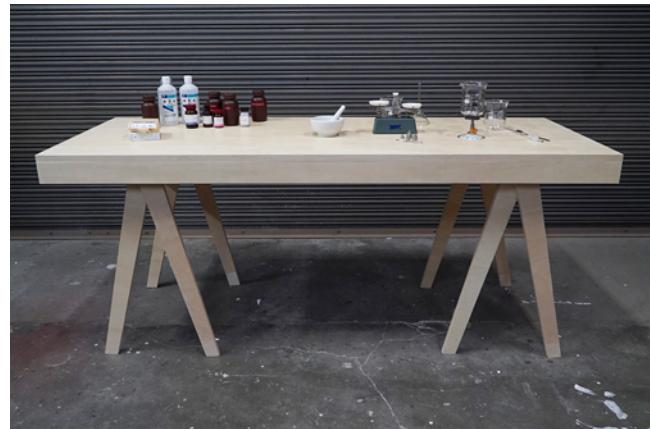
MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

MISA SHIN GALLERYでの初めての個展となる「太陽と富士山とスティーブ・ライヒ」は、鉄の化合物である鉄塩の感光性を利用した写真のプリント技法、青写真で制作された作品です。鉄塩を塗った印画紙の上に、富士山の頂上から持ち帰った砂や小石を置き、その印画紙の下にスピーカーを設置。スティーブ・ライヒのミニマルな音型によって振動した砂や小石が、太陽の光で感光することで線や陰影を生み出します。それは、音の振動という不可視なものが、太陽の光というもつとも根源的な自然の力によって可視化され、アーティストの意思を超えて自然現象として生み出されるブルシアンブルーの絵画となります。

「私たちの文明は原子力を除き、地球上に存在する物質を加工する事で成り立っています。つまり物質自体を創造することは出来ませんが、存在する物質を別の物質に置き換えることが出来る。そしてやはり原子力を除き、植物の光合成にはじまり、食物連鎖、燃料などあらゆる営みを太陽に依存しているのです。」

太陽の光、地球上の鉱物、音の振動など、すでに存在する元素が化学反応をおこし別の物質に生まれ変わるプロセスの痕跡「太陽と富士山とスティーブ・ライヒ」、どうぞご高覧下さい。



篠田 太郎, 太陽と富士山とスティーブ・ライヒ
2016, ミクストメディア, 180 x 70 x 94 cm



篠田 太郎, 太陽と富士山とスティーブ・ライヒ 制作風景, 2016

篠田 太郎

1964年東京生まれ。一貫して人間と自然の関わりを深く問う作品は、彫刻、ビデオ、インスタレーションと多岐にわたり、国際的に高い評価を受けている。Sharjah Art Foundation(シャルジャ、2016年)、balzerARTprojects(バーゼル、2015年)、森美術館(東京、2010年)、イザベラ・ステュワート・ガードナー美術館(ボストン、2009年)、REDCAT (ロサンゼルス、2005年)、広島市現代美術館(広島、2002年)などで個展やプロジェクトを開催。シドニー・ビエンナーレ(シドニー、2016年)、シャルジャ・ビエンナーレ(シャルジャ、2015年)、イスタンブール・ビエンナーレ(イスタンブール、2007年)、釜山ビエンナーレ(釜山、2006年)、横浜トリエンナーレ(2001年)などの国際展にも多数参加している。